

# 蓮池薫さん32年越しの卒業

2007年度 中央大学 第125回 卒業式  
大学院修士学位授与式

特集

「チャレンジし続ける」と  
新たな決意  
自分の中の拉致事件は  
終わらない



北朝鮮に拉致され、帰国後に本学法学部法律学科に復学していた蓮池薫さんが3月25日、多摩キャンパスで行われた晴れの卒業式に出席、卒業証書を手にした。入学以来、24年の「空白期間」をはさみ、32年越しの卒業だ。50歳の蓮池さんは「一週り以上も年下の」同期生「と和やかに談笑する一方で、「これからチャレンジし続けます」と決意を新たにした。

学生記者取材班

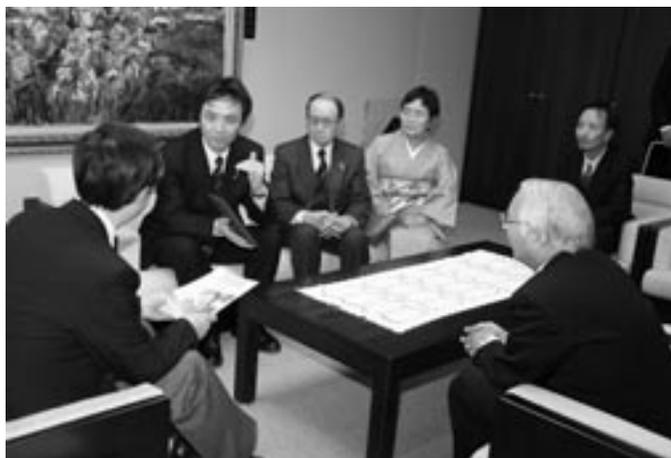
## 【学長室／卒業証書授与】

「32年かかりました」と蓮池薫さん。永井和之学長が、蓮池さんの手記『卒業にあたって』が掲載された『Hakunon ちゅうおう早春号』を手にして、「(手記にある)『諦めはしても忘れはしませんでした』という言葉が印象的でした」と応じる。

### ◆中央大学のネクタイを締めて

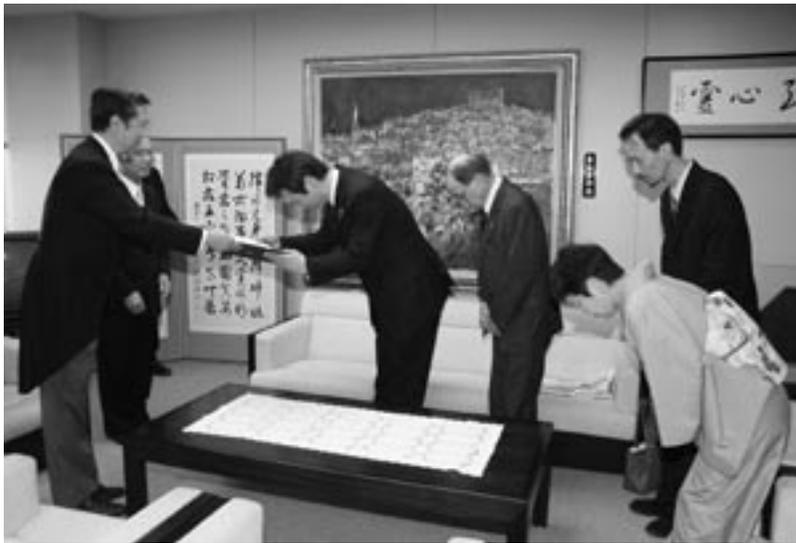
この日、法学部の卒業式に先立って学長室で、永井学長から蓮池さんに直接、卒業証書が手渡された。神妙な表情で証書を受け取る蓮池さんを、この日を待ち望んでいた両親の秀量さんとハツイさん、それに兄の透さんが見守った。

《1976年4月に法学部法律学科に入学した蓮池さん。だが、大学3年次の1978年7月、新潟県柏崎市に帰省中、北朝



永井学長（左端）、井上法学部長（右）と歓談する蓮池さんとご両親、兄・透さん（右端）＝学長室

鮮の工作員により蓮池(旧姓奥土)祐木さんと共に拉致された。本来ならば1980年3月には卒業していたはずだった》  
卒業証書が授与されたあと、蓮池さんを囲んで和やかに歓談。紺色のスーツに指導教授からプレゼントされたという中央大学の青色のネクタイを締めた蓮池さんは、緊張した面持ちながら、時折、笑顔もこぼれる。



永井学長（左端）から卒業証書を受ける蓮池薫さん＝学長室

「拉致されてまず考えたのが、自分には勉強があるから、大学の夏休みが終わる前に早く日本に帰して欲しいということでした。そのことを訴えたが、作業員は聞く耳をもたなかった。しかし、日本で自分の帰国を待っていてくれる後輩達がいまして。そういうみなさんのおかげで自

分はこうして日本に帰ることができたと思っています」

《拉致被害者の「家族会」が結成された翌年の1998年5月、中央大学に学生やOBによる「北朝鮮に拉致された中大生を救う会」が結成された。「救う会」は以後、大学に蓮池さんの学籍回復を働き

かけるなど、救出・支援活動を展開。現在も「復学した中大生蓮池薫さんを支える会」として活動を続けている》

◆これで終わらせない

「この度（卒業）は人生のけじめをつけたと言えますね」と永井学長。

「そうですね。これはこれで終わらせないで、何かに役立てたい」と応じる蓮池さん。

永井学長は「これから本学がお役に立てることがあれば、おっしゃってください」と、今後も全面支援することを約束。続けて「ご両親には、ご

子息が拉致された後も学費を払い続けていただいたということで、大変申し訳ないです」と感謝。

これに添えて父親の秀量さんは、「親として当然のことです。中央大学で前例のないことであつたのに、こうして対応していただき、親として感謝でいっぱいです」。隣で母親のハツイさんが、ハンカチでそっと涙をぬぐった。

《蓮池さんの両親は在籍可能な8年生まで学費を納め続けた。しかし、蓮池さんは在籍年限8年目の1998年7月に、消息不明のままに除籍。ご両親は1998年5

月に中央大学に学籍回復を求め、請願書を送るなど運動。蓮池さんは帰国後、2004年9月に法学部3年に復学が認められ、警備の都合上から柏崎市の自宅出張講義を受けながら勉強を続け、必要な140単位を取得した》

◆少し親孝行できたかな

学長室には、報道関係者はおらず、



卒業証書を初めてご両親にみせる蓮池さん

取材をしていたのは学生記者だけ。それもあってか、永井学長の配慮により当初の予定になかった10分程度の学生記者による単独インタビューが実現した。

そこで、学生記者は卒業の日を迎えた率直な気持ちを蓮池さんに聞いた。

「自分にとって大変重い卒業証書です。親の気持ち、親族の気持ち、



学生記者のインタビューにこたえる蓮池さん＝学長室

ていない拉致被害者の方々が早く帰って来られるように心から願います」と帰国できずにいる拉致被害者をおもなばかった。

両親が除籍にならないよう学費を払い続けたことについて蓮池さんは、「両親には、生きていくんだ、絶対に探し出すんだ、という気持ちがあつたんだと思います。卒業することで、少しは親孝行できたかなと思つています」と語った。

◆「嬉しい」と  
目頭おさえる母

これを受け、秀量さんが「休学、除籍、復学、卒業の一連の過程で、歴代の学長や先生方にお世話になったので、感謝したい。何よりも感謝の気持ちを伝えたくて来ました」と述べた。

またハツイさんは「学長や、『救う会』の後輩の方、先生方が一生懸

自分を救出するために活動してくれた後輩のみなさん、勉強するために手助けしてくれた先生や職員の方々の気持ちが入っている、意義の深い卒業証書です」  
蓮池さんは、質問した学生記者に「今もまだ帰国できず、卒業もでき



お世話になった先生方と和やかに歓談＝ヒルトップ4階

命で、心から感謝しています。涙がでるほどうれしいです。本当にありがとうございます」と述べながら、目頭をおさえた。  
最後に蓮池さんは、学生記者の質問に答えて、次のような後輩へのメッセージを託した。  
「自分は法律で身を立てることは考えていませんでした。法律を通して、社会を見る視点を見つけることができると思っていました。また拉致」とは言えます」

【第1体育館／卒業式】

◆目をつぶり、校歌斉唱  
蓮池さんが体育館に入場、最前列の報道関係者撮影エリア前に座った。待ち構えていたカメランのシャッターが一斉にきられ、つぎつぎにたかれるフラッシュに会場がざわついた。  
蓮池さんは、隣り合わせた卒業生とにこやかに言葉を交わす。

午後2時、卒業式は始まった。全員で校歌を斉唱。さまざまな思いが去来したのだから、蓮池さんは、時折目をつぶりながら、校歌を口ずさむ。永井学長が式辞に立ち、中央大学の『質実剛健』の気風



に触れ、「社会において、おかし  
い、と堂々と主張し、人生を誠実に  
歩んでいて欲しい」と訓示。そして  
蓮池さんについて言及した。

「蓮池さんは『Hakumon ちゅう  
おう』（早春号）で、周囲の人々に

「おめでとう」と卒業式  
で同期生と握手。周囲の  
人にも笑顔がこぼれる＝  
第1体育館



起立して全員で校歌斉唱

各社によるインタビュが行われた。  
集まったマスコミは25社。蓮池さ  
んは卒業式出席後、多くの卒業生に  
握手や写真撮影を求められ、第1体  
育館からCスクエアまで行くのも一  
苦労といった様子で、少し遅れての  
登場となった。

蓮池さんに幹事社が代表質問する。

#### ◆復学し、本来の勉強できた

——卒業を迎えての感想を聞かせ  
てください

蓮池 「学長の式辞をはじめ、自  
分のことを話していただいて恐縮で  
す。この卒業をひとつの区切りとし  
てまた決意を新たに頑張っていきた  
い」

——卒業されるまで長い時間がか  
かりましたが

蓮池 「拉致されたとき、学業を  
続けられるかどうか心配だった。抗  
議したが、その訴えは北朝鮮には全  
く聞き入れなかった。それがこう  
して復学し、きょう卒業に至ったの  
は感慨深いです」

——仕事をしながらの勉強はいが  
がでしたか

蓮池 「法学の勉強をしましたが、

感謝をあらわし、  
ご自身の厳しい  
体験については  
書かれていませ  
ん。まだ帰国で  
きていない人へ  
の配慮があるの  
だと思います。

復学した蓮池さんのように自己の信  
念を貫いて、ひとつひとつ問題を解  
決していただく」と述べた。

#### 【Cスクエア小ホール／

#### ぶら下がり記者会見】

卒業式終了後、Cスクエアの小  
ホールで蓮池さんに対する報道関係



記者会見には大勢の記者、カメラマンがおしかけた=Cスクエア

払ってくれました。子供は必ず生きていけるから、何とか救い出さなければならぬという親の気持ち。払い続けることによって、必ず救い出せるという心の支えになったのだと思います。その恩返しの意味でもよかったですと思います」

◆目標をみつけ、努力する

——息子さんに親として頑張っている姿をみせたかったですか

蓮池 「漠然と生きるのではなく、自分で目標をみつけて、そのために努力をする。一度自分で決めたなら、つらくても結果を出すために努力する。そういう姿勢をみていてくれたなら嬉しい。意識的にみせたのではないです」

か ——印象に残った勉強はなんですか

蓮池 「興味深かった科目は家族法です。家族法は円満な家族を守ろうとする法律で、法は人を裁くためだけのものではないと感じました」

蓮池 「両親は拉致後、学費を

今では若いときとは違った見方ができます。経験を積んだので条文の裏にあるもの、法律の目指すものが自分なりに理解できるようになりました。条文を丸暗記するのではなく、本来の法律の勉強ができました」

——ご両親も卒業式に参加されました

——校歌斉唱で目をつぶられてい

ましたが、何か考えられていましたか

蓮池 「他の拉致被害者の方が早く全員帰国し、卒業できる日を迎えられるよう呼びかけたい。早く横田めぐみさんが帰国してほしいし、世の中が早くそういう状況になることを心から願う。そうなるまでは、自分の中の拉致事件は終わりません」

——卒業されて新たなチャレンジは

蓮池 「人生はチャレンジの連続です。希望に燃えるチャレンジもあれば、困難を乗り越えるためのチャレンジもあります。全てはさらなる

発展、向上のためのチャレンジ。拉致によって奪われた24年間の空白、失った時間を取り戻すことはできないけれども、残された時間をいかに濃く生きるかだと思います」

◆50歳で卒業、悔しい気持ちも

——周りの学生は

蓮池 「卒業生のみんなが自分大声をかけてくれるのが、照れくさい半分、同期なんだなあと思うと嬉しくもある。でも自分は50歳にして卒業、という現実を考えると、悔しい気持ちもあり、拉致の悲惨さを感じずにはいられないです」

ここで記者からの質問は終わった



報道各社のインタビューにこたえる蓮池さん=Cスクエア

が、最後に、蓮池さんからマスコミ各社へのメッセージがあった。

「拉致問題が多少風化してきている気がします。自分のことより、まだ帰国できていない拉致被害者の方々が早く帰国できるように、という方向で行動していただきたいと思っています」

## 【ヒルトップ4階／法学部祝賀パーティー】

記者会見を終え、蓮池薫さんが向かったのは、法学部祝賀パーティー。会場はヒルトップ4階。会場にはすでに多くの卒業生が集まっていた。

### ◆笑顔で同期生らと記念写真

早速、卒業生らに囲まれる蓮池さん。記念写真をせがまれ、笑顔で気軽に応じる。

年齢もずつと若い同期生に交わりながら、晴れやかな表情で卒業を祝う蓮池さんの様子をみながら、『北朝鮮に拉致された中大学生を救う会』（現『復学した中大学生蓮池薫さんを支える会』）初代幹事の重城拓也さんは、「これで終わりではなく、まだ補償の問題が残っているので、引き続き活動していく」という。

2代目代表幹事の南竜也さんは「先生方をはじめとしてみなさんがあたたかく見守ってくれた」と感謝。3代目代表幹事の渡部一実さんは



法学部祝賀パーティーで挨拶する蓮池さん

「大学が派手な扱いをしないで卒業式を迎えられたのがよかった」と感慨深げ。挨拶に立った井上彰法学部長は、「蓮池さんはなぜ復学されたのか。それは、社会に対する見

方を学びたかったからです」と蓮池さんの卒業に触れながら、「この4年間は、これからの社会を率いていくために与えられた時間でした。社会の発展のために大学で学んだことを社会に還元してほしい」と祝辞。

### ◆めぐみさんは

「まだ中学を卒業していない」

続いて蓮池さんがステージに立った。

「大学卒業が新しいスタート。これで終わりではないし、チャレンジへの第一歩。空白の24年間は戻つてはこないけれど、残された時間を濃くするためにこれからもどんどんチャレンジしていきたい」と決意を新たに語る蓮池さんに会場から大きな拍手が沸いた。

蓮池さんは、他の卒業生との記念撮影に応じたり、談笑したりととても和やかな雰囲気を楽しんでいた。



同じ法学部の卒業生と一緒に記念撮影＝ヒルトップ4階

るようであった。そして学生記者の取材の最後に、次のように強調した。「横田めぐみさんはまだ中学校を卒業していない。中大学生のみなさんもそれをぜひアピールしてほしい」と。

学生記者取材班

土井真紀子（法学部4年）／池田理

沙（文学部3年）／上田雄太（文学

部3年）／武田朋実（法学部3年）

／今子佳奈（文学部2年）